

学術情報センター ニュース

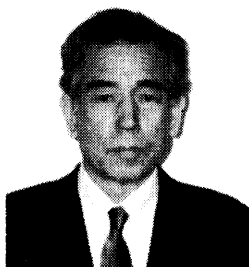
第 21 号目次

- | | |
|--|---|
| • 副所長着任あいさつ……………2 | • 「学会予稿集電子ファイル」の サービス開始……………19 |
| • 目録所在情報サービスの参加機関 200を突破……………4 | • 「学会発表データベース」の 統合サービスの開始……………20 |
| • 目録システム講習会修了者2000名 突破……………5 | • 「平成4年度学術研究活動に関する調査」 の実施……………21 |
| • 学術情報センター学術講演会—ポスター レス時代の学術情報—開催……………5 | • NACSIS サービスQ&A(5)……………22 |
| 《研究開発》 | • NACSIS-IR システム・データベース 収納状況……………26 |
| • UNIX 版 UIP の開発……………6 | • 接続ニュース……………27 |
| 《NACSISサービス案内》 | • NACSIS-CAT システム・データベース 構築状況……………28 |
| • 電子メール用コンピュータシステム 更新に伴うサービス休止……………10 | • ILL システムの利用機関……………29 |
| • NACSIS-IR モニター制度実施状況……………10 | 《教育・研修》 |
| • 目録所在情報サービスを利用するための 新たな接続形態……………11 | • 公開講演会(第12回)の開催予定……………30 |
| • 情報検索サービスを利用するための 端末タイプの追加……………12 | • 平成4年度学術情報センター・ シンポジウム開催……………32 |
| • 『SciSearch』データベースの索引の 変更……………13 | • 目録所在情報サービス利用説明会の 開催……………33 |
| • 「学術関係会議等開催情報」(平成4年度 分)の追加……………13 | • 平成4年度追加講習(会)の開催日程……………33 |
| • 大学間電子メール(SIMAIL)の ディレクトリサービスの運用開始と 利用者情報の登録……………14 | 《その他》 |
| • 電子メールシステムのTEXTエディタの 機能追加……………16 | • 平成4年度前期会議などの開催……………34 |
| | • 人事異動……………35 |
| | • 学術情報センター日誌……………36 |
| | • 海外渡航一覧……………36 |

副所長着任あいさつ

学術情報センター副所長

にしだ たつお
西田 龍雄



私は生来晴れがましいことが嫌いで、改まって挨拶文を書くなどは、ことのほか苦手である。いつもつまらぬ文章をつづって恥ずかしい思いをしているが、今回もまたその例外では有り得ない。今年の3月末で京都大学を定年退官し、やれやれ休息できると思っていたところ、図らずも本センターからお招きをいただいた。誠に光栄で有難いことである。

情報ネットワークの構築とかデータベースの作成などと聞いても、技術面では全く素人の文科系の私は、着任後、好ましからざる結果のみを齎しているのではないかと心安らかでない。いつも瘦せる思いをしている。

実を言うと、教壇を去ったあと気楽に私自身の研究に専心できるものと心待ちしていた。いろいろと集めた資料もたまり、書きためた原稿も多少あって、数点ある出版社との約束を出来るだけ早い時期に果たしたく考えていた。そして現役から離れると当然関連した役職から遠ざかる筈で、中でも学術情報センターの運営協議員からはもっとも早い段階に解放されるに違いないと思こんでいたが、豈図らんやそこからお招きいただいたのであるから、世の中は皮肉なものである。何はともあれ、猪瀬所長のご厚情とご寛容に深く感謝しなければならない。前任者の大野先生のご懇切なお勧めも加わって、非才を顧みず本センターにお世話になる決心をした。

おまえは学情センターでいったいどのような仕事をしているのかとよく聞かれる。ごもっともな質問であるけれども、うまくお答えしにくい。従来の仕事のつづきを半分はさせていただいているからである。

私は主に東アジア地域の言葉と文字を勉強して来た。実際は別の研究もしてきたつもりであるが、表向きはそう言った方が無難でわかり易い。いずれにしても情報科学や図書館学について特別な知識をもっているわけではないことは確かである。図書館学は、図書館長の職務にあった関係で一応勉強し始めたものの空振りで、ほとんど身についていない。実際の図書館運営に関しては、多少の経験を積みはしたが、それも取り立てて言うほどのことでもない。

昨年(1991)京大附属図書館の機関誌『静脩』が通巻100号になるので何か書いてほしいと求められ、「古典籍と目録」と題する雑文を書いた。その中で、扱いにくい文字を使った典籍の処理と関連して、「須く専門家の協力を得て、世界の文字について、世界の言語について解説と見本を提供してくれる Database の作成が必要になろう云々」と述べた。確かにそのようなデータベースがあれば有用に違いないがまだまだ先の話でいつ実現するのか一つの夢である。一般に人文科学の分野で公開された情報は、決して多い数ではない。

ある問題についてどういう研究書が刊行されているか、どの雑誌にどのような論文が掲載されているか、私たちの若い頃は、自分の足で調べて自分の手で書き写したものである。

先輩に教わりながら探索の努力を繰り返すことが研究者として認定される知識と感覚を作り出す源であると考えられていた。苦勞して採し出した情報は、端末機のキーをたたいて得られる情報とは何か違ったものがある。しかし、今や時代は変わってしまった。IR検索で与えられる情報は非常に有用であり、多に越したことはない。それにどう対処するか、そこに含まれない情報をどのように求めるかは研究者の心構えが問題になる。

私の専門領域で言えば、もっとも基本的な対象の把握は、「断代と分域」にある。つまり研究の対象がいつの時代のどの地域のものかの認定が基本であって、その認定のもとに独自の図面を引かねばならない。資料の少ない対象は、いつまでも粗い図面か全くの空白として残ってしまう。自由な人はその空白をまったくの空想か幻想で埋めてしまう。それはすばらしい能力ではあるが、フィクションであって科学ではない。

私は文字の研究を多少進めてきた。文字はそれが表記する言葉とは切り離せない存在であるとするのが私の基本的主張である。例えば日本語を書き表すのに使う漢字は、日本語を離れて考えられない。漢語を表記した漢字は、いつも漢語を背景に考察すべきである。しかし、漢字を漢語を基盤とした概念の集合としてとらえることもまた可能である。用語集を一つの知識の体系として扱ひ得るのと同じように、漢字の集合は立派な知識体系なのである。簡単な例をあげると、漢方の生理学・病理学に支えられた人体の構造に対する基本知識として「五臓六腑」がある。たとえば『呂氏春秋』に「凡人三百六十節，九竅，五臓六腑」とある。よく知られるように、心，肝，脾，肺，腎の「精氣ヲ蔵シ瀉ス」の機能をもつのが臓で、栄養の源となる食物を蓄える大腸，小腸，胃，胆，三焦，膀胱が腑と考えられている。

中国の人は分析的な形態をとらず細分化した概念を知識として整理し、特定の字形を創り出して書き表した。たとえば「洗う」には、沐，洗，浴，滌，澡，洒(=灑)，洩，浣(=澣)，漱，濯，湔，盥などがある。どの漢和字典でも、たいていは同訓という説明がついているが、字典の間で必ずしも説明が一致しない。いまあげた「洗う」の違いは、一言で言うと「洗う」対象と「洗ひ方」によって、言語学で問題にするところの意味分野の分割の結果がそこに提示されている。これは、曾ての漢語の知識体系を代表しているのである。

「沐者去首垢也(沐とはあたまを洗うこと)，洗去足垢(洗とは足を洗うこと)，盥去手垢(盥とは手を洗うこと)，浴去身垢(浴とは身体を洗うこと)」の対象の違いによる分割があり、また、滌(水を流してよく洗う)，濯(すすぎ洗う)，湔(つまみ洗ひをする)，浣(古い垢をとる)などの洗ひ方による分割がある。

私は近年、特に漢語の単音節が表現する意味の広がりや深みにおそろしい驚怖を感じている。漢字の集合を知識体系としてすべての分野についてうまく整理できるわけではないが、このような視点にたつて配列した字典の出現を期待している。

東アジアのそのほかの表意文字，西夏文字，納西文字，彝文字も多かれ少なかれ類似した背景をもっている。

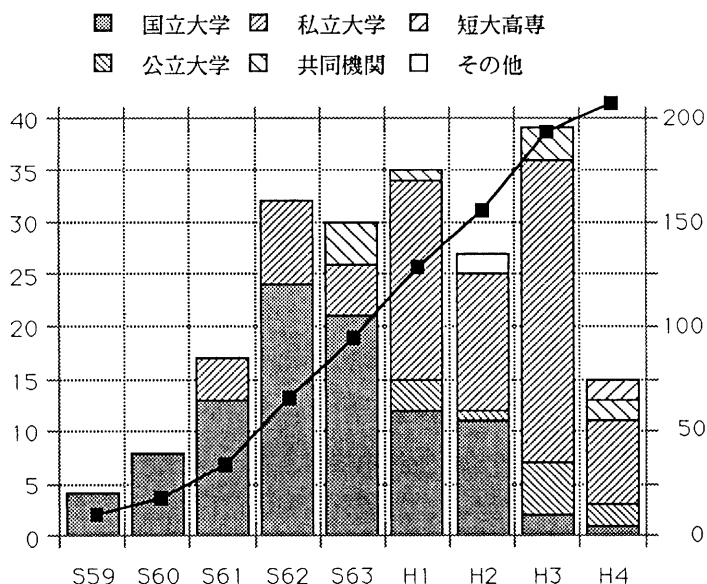
紙面を多い目にいただいたようで、いささか度を越えて書いた嫌いがあるが、お許しいただきたい。

何はともあれ、本センターは今後多方面に発展して行くに違いないが、この2年間の勤務が私の残り少ない研究生活にとっても有益であったと実感できるように過ごしたいものである。ご指導とご支援をお願いしたい。

目録所在情報サービスの参加機関200を突破

平成4年7月2日、北陸先端科学技術大学院大学が目録所在情報サービスに接続され、記念すべき参加200機関目となった。昭和59年11月に東京工業大学が最初の参加館として接続されて以来、7年8ヶ月目の達成である。100機関目の帝京技術科学大学は、平成元年9月に接続されたが、この時点で5年2ヶ月かかっており、その後ちょうど半分の2年6ヶ月で100機関増加したことになる。

サービスを開始してからの、年度毎の参加機関数および参加機関の累計は下図のとおりであり、8月21日現在207機関が参加している。



参加機関数は、サービス開始後の4年間、4機関、8機関、17機関、32機関と、毎年ほぼ2倍のペースで増えており、その後は毎年30機関前後の参加があり、順調に増加している。

参加機関を設置主体別で見ると、国立大学は、96大学と1大学を除いて全ての大学が参加している。公立大学は、平成元年5月に奈良県立医科大学が参加して以来、11大学（電算機導入館の69%）が参加している。私立大学は、昭和61年4月に成蹊大学が参加して以来、参加大学は86大学（同48%）となっている。さらに、共同利用機関では、国立天文台が昭和63年10月に最初の参加機関として接続して以来、10機関が参加している。また、短期大学、高等専門学校については、平成4年度から参加が可能となったが、すでに青山学院女子短期大学および新居浜工業高等専門学校が参加しており、今年度中にさらに3機関が接続される予定となっている。

目録システム講習会修了者2,000名突破

平成4年6月22日から26日にかけて行われた平成4年度第2回目録システム講習会において、本講習会の修了者の累計が2,000名を突破した。

記念すべき2,000名目となったのは、駒澤大学の上田昌代さんであった。



修了証書を受け取る上田昌代さん

学術情報センター学術講演会 —ボーダーレス時代の学術情報— 開催



稲田獻一氏



森 亘 氏



岡村總吾氏

学術情報センター学術講演会『ボーダーレス時代の学術情報』が、去る7月6日(月)東京大学山上会館大会議室において開催され、約100名の参加があった。西田龍雄学術情報センター副所長司会のもとに、猪瀬博所長の挨拶に引き続き、稲田獻一大阪大学名誉教授による「相互依存の経済学」、森亘科学技術会議議員による「科学技術会議—第18号答申の意味するもの—」、岡村總吾東京電機大学長による「技術革新と学術情報」の各々の講演があった。

UNIX 版 UIP の開発

1. はじめに

今年度センターでは NACSIS-CAT 及び NACSIS-ILL 接続用のプログラム（通称）UIP の UNIX 版を開発・提供することになった。

現在、研究開発部および事業部の関係者からなる UIP ワーキンググループを設置して、この UNIX 版 UIP の開発を実行している。

以下に、この UIP 開発に当たった基本的な考え方や、現段階で予定されている機能の概略を示す。

2. UNIX 版 UIP の開発方針

今回の UIP 開発には次の二つの大きな特徴がある。

- ① UNIX 版 UIP の開発をセンターで行うこと
- ② 開発した UNIX 版 UIP は、センターで管理・配布すること

今回の開発に至った第一の理由としては、NACSIS-CAT のユーザーである大学図書館での環境変化に対応するためという点があげられる。大学内でのキャンパス LAN 導入などのコンピュータ・通信環境の変化に伴い、大学図書館の機械化システムもその環境にあわせたサービスを求められるようになってきた。すでに情報処理センターでは新しい環境への対応が始まっており、図書館においても対応を迫られ始めている段階である。このような変化に応じて、NACSIS-CAT への接続も新しい環境で運用することを求められているが、スムーズな移行のためには UIP の開発を可能な限り短期間で終了させる必要がある。これがセンターで UIP を開発することとした第一の理由である。

第二の理由として、NACSIS-CAT 及び NACSIS-ILL 接続の将来的方向を考えた時、新しいサービス形態や、技術的環境変化に柔軟に対応するためには、センターで UIP を管理しておく方法が容易であるという点があげられる。従来の方法では仕様のみをセンターが管理してきた。この場合、新しい接続仕様に移行しようと考えても、以前に開発を行った全メーカーがそれに対応した UIP を開発し、接続している図書館がそれをインストールしなければ移行できない。このような方法では新しい環境に対応することが難しくなっている。センターでの UIP 管理と配布は、システムの環境変化に対する柔軟な対応を意図したものである。

なお、UNIX 環境ではメーカーによる差異が小さく、センターで開発した UIP を広く利用することが可能であることもこのような方針としたことの附随的な理由である。

今回の開発は、これまで研究開発部で研究目的で開発してきたいくつかの UIP の経験を生かし、その過程で得られた技術、ノウハウを生かしながら、事業ベースで再度設計開発し直すという方法をとる。また、利用現場からの意見のフィードバックのために、パイロットモデルを作成して利用環境の意見を聞いた上で最終モデルを作成するという二段階

の開発方法も導入する。

センターで開発した UNIX 版 UIP は平成 5 年 4 月から提供を開始する計画である。主たる提供先には、各図書館システム開発メーカーを想定しているが、各大学図書館に対しても希望があれば提供する。提供方法の詳細については未定であるが、センターに申請してもらえれば UIP をソースコードの形で提供する予定である。

3. UNIX 版 UIP の概要

現在、次の開発対応機種および動作条件において開発を行っている。なお、この開発機種は現在使用されているワークステーションの代表的なもののひとつであるという点で選択したものであり、UIP 自体は他のワークステーションにも容易に移植可能なように開発を行っていることを申し添えておく。

- ハードウェア・プラットフォーム

SUN Microsystems Inc. 製 SPARC Station2 ないし相当品

- ソフトウェア・プラットフォーム

SUN OS Rev. 4.1.2-JLE 1.1.2

- グラフィカル・ユーザーインターフェース

Open Windows 及び Motif

- 通信プロトコル

学術情報センターのホストシステムとは telnet プロトコルで通信する。仮想画面は telnet リンク上で、VTSS に準じたデータ形式および手順で受け渡しされる。

現在計画している UIP の機能の概要は次のとおりである。

- ① 制作する UIP はマウスとキーボードにより、図 1 のような基本画面を操作する。コマンド発行は、基本的にコマンドボタンサブウィンドウをマウスで指すことで実行する（ボタンによるコマンド発行機能）。
- ② 仮想画面サブウィンドウには現在ワークステーションが保持している仮想画面データが表示される。保護フィールドは単に表示されるだけだが、編集可能フィールドのフィールド値はユーザーが書き換えることができる。またユーザーが仮想画面に新フィールドを追加することもある。これらを編集作業と呼び、グラフィカル・ユーザーインターフェースを使用して行う。
- ③ ローカルデータサブウィンドウは、ユーザーごとに定義されているフィールドを表示および編集することができるものとする。

UIP は次のような機能エレメントを備える。

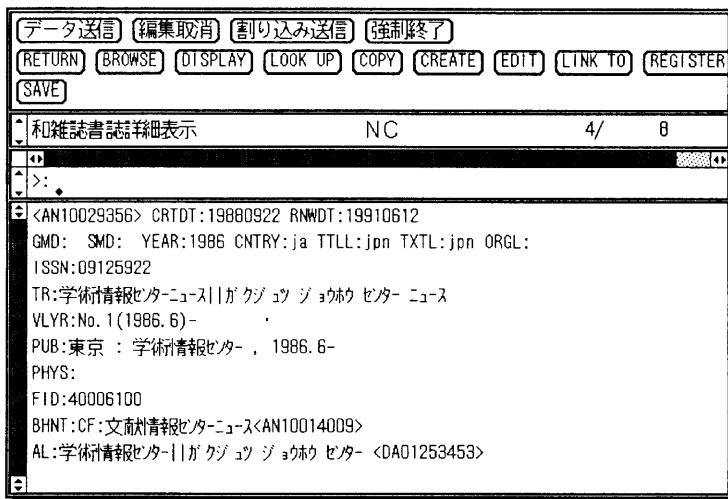
① 仮想画面スナップショット機能

任意の時点で仮想画面データのスナップショットをとり、それをスクリーン上の別ウィンドウに表示したり、プリントアウトしたり、ないしファイルに保存する操作ができる。

② 編集操作取消し機能

編集操作を取り消すこと (undo)、および一連の編集操作全体を取り消し、最初の

〔図1〕



仮想画面データに戻すこと(rollback)ができる。

③フィールド操作機能

フィールドの挿入・削除，フィールドの自動拡張などについては，マウスを使用してメニューにより実行できる。

④ボタン機能設定

ユーザーごとにボタンを設定できる。

ボタンに設定できるものには，目録システムコマンドとローカルシステムコマンドのチェーン等がある。

⑤ホストログオン機能

学術情報センターホストにログオンし，目録サービスプログラムを起動するまでの操作手順を登録し，自動実行できるようにする。

⑥ローカルコマンド機能

また，使用文字コードに関しては，UIP 内部では文字コードに EUC を使用する。学術情報センターで定義した約650種の外字，いわゆる EXC は EUC の G3 エリアにマッピングする。

なお，UIP からローカルシステムへのデータ転送は，仮想画面スナップショット機能を利用して，中間ファイルを経由して行う。

4. 本 UIP と図書館システムとの関係

今回の UIP 開発は，各図書館システム開発メーカーで重複して行われるであろう作業を，センターで UIP を開発することによって軽減することも目的の一つである。言い換えれば，各図書館システム開発メーカーとそれを動かす大学図書館などは開発された UIP を利用して，ワークステーション上で稼動するそれぞれの図書館システムを開発すること

に専念できるのであり、センターもそのような動きを期待している。

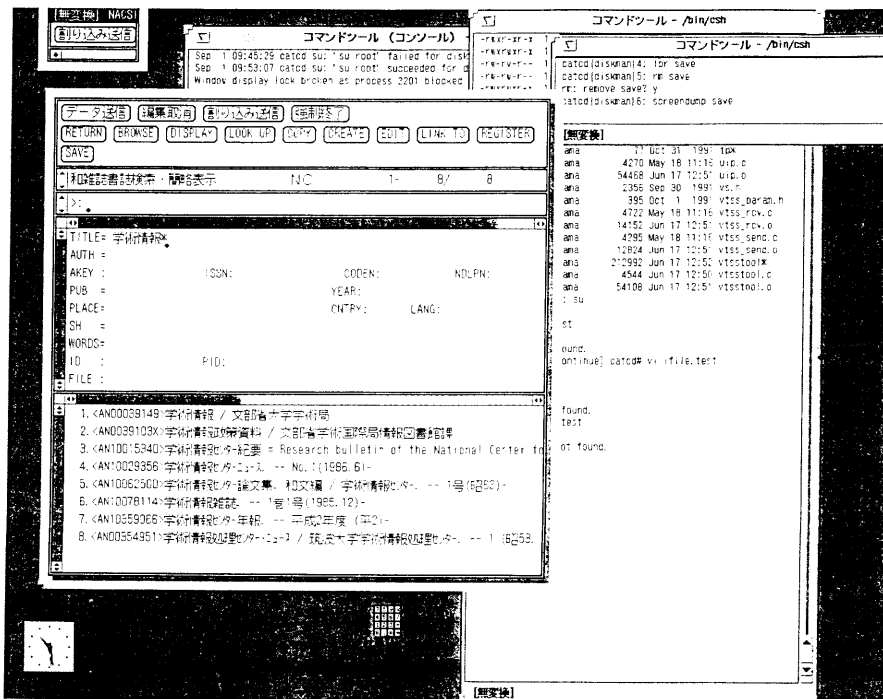
例えば、UIP からダウンロードされたデータをどのように図書館システムに取り込んでいくのか、OPAC をどの範囲まで考えるか、どう構築していくのか、UNIX で動く受入システム・閲覧システムをどのように作成するか、などなど、センターが開発したUIP をもとに検討・整備しなければならない点はいくつか存在する。

5. スケジュールと今後

| | |
|-----------------|-------------|
| 平成4年4月～6月 | 仕様の作成 |
| 〃 7月～10月 | パイロットモデルの作成 |
| 〃 10月～11月 | パイロットモデルの評価 |
| 〃 11月 | 第1版仕様の確定 |
| 〃 11月～平成5年1月 | 第1版の作成 |
| 平成5年2月 | マニュアルなどの作成 |
| 平成5年4月～ | 運用開始 |

パイロットモデルの評価にあたっては、いくつかの大学図書館に実際の作業をお願いする予定にしているのでその際にご協力よろしくお願ひしたい。

UIP 第1版の仕様は11月中旬に確定する予定である。入手を希望される方は目録情報課図書目録情報係までお問い合わせください。



電子メール用コンピュータシステム更新に伴う サービス休止

電子メール、電子掲示板などの利用環境改善のため、電子メール用コンピュータシステムの機種更新を行います。このため、下記の期間は全てのサービスを休止します。

サービス休止期間

平成4年10月23日18時00分から

平成4年11月4日9時00分まで

なお、以下の点にご注意ください。

- 機種を更新しても休止直前のユーザファイル及びメールボックスのメッセージは継続されますので、特に利用者側での作業は必要ありません。
- サービス休止期間中に受信した国際電子メールについては、サービス再開後に各利用者に順次配信処理が実施されます（受信件数が多い場合は、各メールボックスに配信されるまで多少時間が遅れることがあります）。

利用者の皆様には長期間ご迷惑をおかけしますが、何卒ご了承ください。

(システム管理課)

NACSIS-IR モニター制度の実施状況

本センターでは、情報検索サービス (NACSIS-IR) の改善充実のため、モニター制度を実施し、利用者の方々の詳細なご意見、ご要望を調査しています。今回は、NACSIS-IR オンラインニュースにより募集を行いましたところ、多数の応募をいただきましたので、利用頻度、専門分野などを考慮し、次の方々にモニターを委嘱することとなりました。現在、モニタリングを実施 (10月末日まで) していただいています。

なお、本モニター制度は、今後も毎年度実施の予定です。

モニター委嘱者 (氏名の50音順、敬称は略させていただきました。)

研究者

大久保雅史 (大阪大)、桂重樹 (尚絅女学院短大)、熊倉千之 (東京家政学院大)、小林久芳 (東京大)、杉山滋郎 (北海道大)、高尾明子 (お茶の水女子大)、細谷行輝 (大阪大)、松沢孝男 (茨城工業高専)、室政和 (岐阜大)、吉田正樹 (神戸大)

図書館職員

入山美智子 (名古屋大)、岩本博 (大阪国際大)、岡康次郎 (大阪府立大)、坂本直明 (茨城大)、田中敏朗 (創価大)、田中藤雄 (奈良教育大)、遠山潤 (活水女子大)、富本寿子 (北海道大)、藤田慶子 (京都大)、室橋真 (埼玉大)

(データベース課)

目録所在情報サービスを利用するための新たな接続形態

平成4年7月より、全国の図書館などからVTSS手順で、業務用の目録所在情報サービス(CAT・ILLサービス)を利用するための通信回線として、新たに「DDX-Pの80年版規格(アドレス:313-7108)」を新設しました。

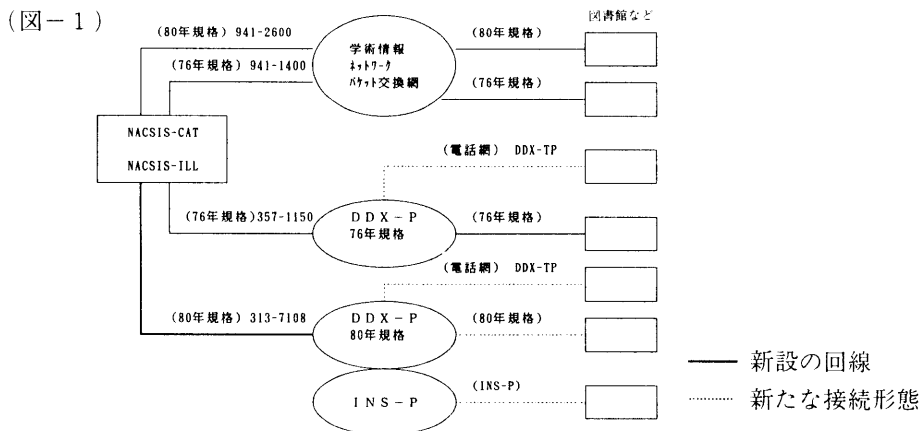
これにより、全国の図書館などから、次の新しい接続形態によるサービスが利用できることになりました。

- ①全国の図書館などが、ISDN回線(INS-P)に加入し、NTTが行っているDDX-Pとの相互接続サービスを利用して目録所在情報サービスが利用できます。
- ②全国の図書館などが80年版DDX-P回線に加入し、80年版X.25規格専用の端末接続装置(PAD)を介した端末から、目録所在情報サービスが利用できます。
- ③全国の図書館などから電話回線経由で、NTTが行っているDDX-Pとの相互接続サービス(DDX-TP)を利用して目録所在情報サービスが利用できます。

ただし、③の「DDX-TP」の場合、他の回線に比べるとレスポンスが遅い(300bps,1200bps)、回線品質がよくない(電話回線利用のため)などの問題があり、この点を予め了解のうえで利用してください。

また、従来から設置されていた「76年規格のDDX-P回線(357-1150)」での「DDX-TP」利用についても可能としました。

これらの接続を行うための通信回線構成を図-1に示します。



これらの方法での接続を希望する場合は、下記の連絡先までご相談ください。

- 利用可能な端末機種など端末システムに関すること
目録情報課 03-3942-6983~8
- 接続相談およびホストシステムに関すること
システム管理課 システム業務係 03-3942-6945~6
- 利用の申請に関すること
共同利用課 共同利用係 03-3942-6933~4

(システム業務係)

情報検索サービスを利用するための端末タイプの追加

現在、電話回線、学術情報ネットワークのアクセスポイント、NTTのDDX-TPのいずれかを使用し、情報検索サービス（NACSIS-IR）を利用する場合、センターから送信された「¥」記号が、端末では「\$」記号に表示されることがあります（図-1）。これを正しく表示するため新たな端末タイプ「JIS83J」を追加しましたのでご利用下さい（図-2）。

（図-1）従来の端末タイプを指定した場合の表示例

```

ENTER TERMINAL TYPE
JIS83 .....①
ENTER LOGON
LOGON E00001
JET12026A ENTER PASSWORD FOR E00001 -
XXXXXX
JDT253I E00001 LAST EXECUTION DATE=yy.mm.dd TIME=hh.mm.ss
JET10065I TSS E00001 STARTED TIME=hh:mm:ss DATE=yy-mm-dd
>> YOUR ACCOUNT (A, $159935, $340065, $500000) ATTRIBUTE (J) <<
>>>> WELCOME TO NACSIS-IR SYSTEM (yy-mm-dd hh:mm:ss)
+++ ENTER"NEWS" COMMAND TO SEE NEWS FROM NACSIS. (UPDATE ON yy-mm-dd)
>>
    情報検索サービスの利用
  
```

①端末タイプ（この例では「JIS83」）を入力します。

（図-2）追加された端末タイプを指定した場合の表示例

```

ENTER TERMINAL TYPE
JIS83J .....②
ENTER LOGON
LOGON E00001
JET12026A ENTER PASSWORD FOR E00001 -
XXXXXX
JDT253I E00001 LAST EXECUTION DATE=yy.mm.dd TIME=hh.mm.ss
JET10065I TSS E00001 STARTED TIME=hh:mm:ss DATE=yy-mm-dd
>> YOUR ACCOUNT (A, ¥159935, ¥340065, ¥500000) ATTRIBUTE (J) <<
>>>> WELCOME TO NACSIS-IR SYSTEM (yy-mm-dd hh:mm:ss)
+++ ENTER"NEWS" COMMAND TO SEE NEWS FROM NACSIS. (UPDATE ON yy-mm-dd)
>>
    情報検索サービスの利用
  
```

②端末タイプ（この例では「JIS83J」）を入力します。

また、追加された端末タイプを利用する場合、平成4年度中は端末タイプの標準値（端末タイプ入力時に改行キーのみ押した場合）「JIS83」は変更致しませんので、利用時には②のように明示的に「JIS83J」を指定してください。なお、平成5年4月からは、上記「JIS83J」を標準端末タイプ「JIS83」とし、現在の「JIS83」は端末タイプ「JIS83A」として標準の端末タイプの機能を変更する予定です。このため、端末側ソフトで「JIS83」を設定している場合、自動的に表示が変更されます（表-1）。

(表-1) 標準の端末タイプの機能変更

| ①や②で指定する TERMINAL TYPE | 平成4年7月から 平成5年3月まで | 平成5年4月以降 |
|---------------------------|----------------------|---------------------|
| JIS83 (標準値) | ¥と\$が逆になる場合 がある。 | ¥と\$が逆になるのを 防ぐ。 |
| JIS83J | ¥と\$が逆になるのを 防ぐ。 | (指定できない) |
| JIS83A | (指定できない) | ¥と\$が逆になる場合 がある。 |

(システム業務係)

『SciSearch』データベースの索引の変更

『SciSearch』データベースにおいて、これまでプリフィックス「CY.」(被引用文献の出版年)の索引の一部(1984~1987)をA、Bに分割しており(学術情報センターニュース第12号(1990.6)既報)、利用者の方々にはご不便をおかけしておりましたが、このたび、各1年分をまとめて指定することができるよう、次のように再統合しましたのでお知らせいたします。

CY.1984A と CY.1984B → CY.1984
 CY.1985A と CY.1985B → CY.1985
 CY.1986A と CY.1986B → CY.1986
 CY.1987A と CY.1987B → CY.1987

(データベース課)

「学術関係会議等開催情報」(平成4年度分)の追加

平成4年7月10日より、BBSでサービスしている「学術関係会議等開催情報」(日本学術会議事務局提供)に、平成4年度分データを追加しましたので、ご利用ください。掲示板名は「CONF」です。

なお、利用方法は「電子メールシステム利用者マニュアル」あるいは、掲示板「CONF」内にある「会議開催予定一覧の利用法」を参照してください。

(システム管理課)

大学間電子メール (SIMAIL) のディレクトリサービスの 運用開始と利用者情報の登録

平成4年10月1日より、大学間電子メール (SIMAIL) のディレクトリサービスを開始します。

1. SIMAIL のディレクトリとは

SIMAIL は、本センターのメールサービス (NACSIS-MAIL) および全国の大型計算機センターなどのメールサービスが相互に接続されたメールサービスです (「学術情報センターニュース」No.15(1991.3) P.14~17 参照)。

SIMAIL ディレクトリとは、SIMAIL を構成する各センター毎の利用者に関する情報 (メールの送り先の名称などの利用者情報) を一元的に本センターメールシステムに蓄積し、SIMAIL の全ての利用者にもメール送信のための必要情報を提供するサービスです。

他の計算機センターなどの利用者情報の SIMAIL ディレクトリへの登録については、今後各計算機センターから逐次登録され、順次全国の大学などの電子メール利用者情報が網羅されてゆくことになります。

今回、NACSIS-MAIL に登録されているディレクトリ情報を、本ディレクトリサービスに移管し、広く利用できるように変更することを予定しています。ついては、本ディレクトリサービスの目的と機能を理解され、本サービスに移行することにご賛同いただきたく思います。また、ディレクトリへの登録を希望されない利用者は後に述べる手順に従って処理をお願いします。

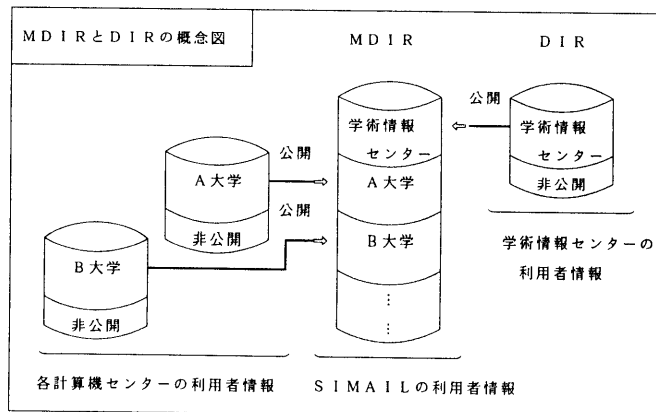
なお、他計算機センターなどから登録された内容の修正や登録情報を非公開にする場合は、メールボックスを所有する所属センターに対して手続きすることになります。

2. SIMAIL ディレクトリの利用

(1) 検索方法

① 本センターのメール利用者

呼び出し (利用開始) コマンドは「MDIR」です。利用方法は現在のディレクトリサービスの「DIR」と同様です。また、検索の対象範囲は次のとおりです。



②他センターの利用者

- 本センターシステムのゲスト用の特定利用者番号を利用し MDIR コマンドで検索、表示できます。
- メールを利用して検索を行い、検索結果をメールで返信します。

(2)表示内容

非公開を希望された方の情報については全ての項目が登録されておきませんので検索することができません。

MDIR で検索した結果の内容には、本センターメールシステムのディレクトリ (DIR) のデータ項目以外に次の2つの項目が追加されていますが、各項目の内容が設定されていなければ項目名 (NAME:, NOTE:) も表示しません。

NAME: メールの送り先に個人の名前を利用せず利用者番号などを利用しているセンターの場合、利用者の名前が設定されています。

NOTE: 個人の付属情報が設定されています。

3. 利用者情報の登録と情報の非公開について

本センター分利用者情報の SIMAIL ディレクトリへの登録は、本センターメールシステムのディレクトリ (MDIR と DIR の概念図の DIR 部分) 情報を基に自動的に登録させていただきますが、SIMAIL のディレクトリには公開したくない場合、下記のコマンドを利用することにより登録を取消し、公開の状態から非公開の状態に変更することができます。また、その逆も可能です。

(情報を非公開にするためのコマンド利用例)

```
SYSTEM ?DSET
*****
SIMAIL DIRECTORY SETTING (DSET)
*****
1 : OPEN
2 : CLOSE
SELECT(1 or 2) ?2
YOUR DIRECTORY CLOSED
SYSTEM ?
```

上記のコマンドは学術情報センターに利用登録されている利用者の情報を公開・非公開するためのコマンドです。学術情報センター以外のセンターに登録されている利用者の場合はメールボックスを所有する所属センターの処理方法により行います。

ただし、処理の都合により、実際に非公開の状態になるのは、コマンド入力の翌日以降になります。

(システム管理課)

電子メールシステムの TEXT エディタの機能追加

電子メールシステムにおいて既に提供しております日本語ラインエディタ「TEXT」の機能追加を平成4年11月4日から行います。

機能追加の内容は次の3機能です。

- ・行連結コマンド (Joint コマンド)
- ・行分割コマンド (Partition コマンド)
- ・文字抽出コマンド (Abstraction コマンド)

以下にコマンドの詳細機能を説明します。

1. 行連結コマンド

| | |
|-------|----------------------------------|
| J [B] | [a r [, a r [...]]] [, a *] |
|-------|----------------------------------|

a r : 連結する対象の行範囲番号 (省略時はカレント行となる)

a : 連結後の文字列を指定行番号の後に挿入する
(省略時はカレント行の次の行となる)

* : カレント行とする

B : 連結後の文字列を指定行の前に挿入する

現在行 : 連結後の行

行連結コマンドの実行例

| | |
|--|---|
| <pre>-L ALL 0010 ABCD 0020 EFDH 0030 IJKL 0040 MNOP -J 10, 20, 30, 40, 10 -L ALL 0011 ABCDEFGHIJKLMNOP -</pre> | <p>データ内容の表示</p> <p>} データの内容</p> <p>10行, 20行, 30行, 40行を接続し10行の後に挿入</p> <p>データ内容の表示</p> <p>データの内容</p> |
|--|---|

2. 行分割コマンド

| | |
|-------|-----------------|
| P [B] | @str@[A] [, ar] |
| P [B] | @str@B [, ar] |

B : 分割の対象となる行の前に挿入する

@str@ : 分割指定文字列

A : 指定文字列の次の文字列以降を分割の対象となる行の後に挿入する

B : 指定文字列の前の文字列までを分割の対象となる行の後に挿入する

ar : 分割対象行範囲 (省略した場合はカレント行となる)

現在行 : 分割した行

行分割コマンドの実行例 - 1

| | |
|-------------------|---------------------------|
| -L ALL | データ内容の表示 |
| 0010 ****ABCD**** | データの内容 |
| -P @ABCD@A, 10 | 「A B C D」で分割する (文字列の後で分割) |
| -L . | カレント行の表示 |
| 0010 ****ABCD | データの内容 |
| -L ALL | データ内容の表示 |
| 0010 ****ABCD | データの内容 |
| 0011 **** | データの内容 |
| -PB @****@A, 10 | 「****」で分割する (文字列の後で分割) |
| -L . | カレント行の表示 |
| 0010 **** | データの内容 |
| -L ALL | データ内容の表示 |
| 0010 **** | } データの内容 |
| 0011 ABCD | |
| 0012 **** | |
| - | |

行分割コマンドの実行例 - 2

| | |
|------------------------|--------------------------|
| <u>-L ALL</u> | データ内容の表示 |
| 0010 ****ABCD**** | データの内容 |
| <u>-P @ABCD@B, 10</u> | 「A B C D」で分割する（文字列の前で分割） |
| <u>-L .</u> | カレント行の表示 |
| 0010 **** | データの内容 |
| <u>-L ALL</u> | データ内容の表示 |
| 0010 **** | データの内容 |
| 0011 ABCD**** | データの内容 |
| <u>-PB @****@B, 11</u> | 「****」で分割する（文字列の前で分割） |
| <u>-L .</u> | カレント行の表示 |
| 0010 **** | データの内容 |
| <u>-L ALL</u> | データ内容の表示 |
| 0010 **** | } データの内容 |
| 0011 ABCD | |
| 0012 **** | |
| - | |

3. 文字列切出しコマンド

| | |
|-------|----------------------|
| A [B] | @s t r @ [a r] [, a] |
|-------|----------------------|

B : 指定した行の前に挿入する

@s t r @ : 切出し指定文字列

指定文字列を指定した行の後に挿入する

a r : 切出し対象行範囲（省略した場合はカレント行となる）

a : 切出した文字列を保存する行の指定（省略した場合はカレント行となる）

現在行 : 指定した行

文字列切出しコマンドの実行例

| | |
|-----------------------|-----------------------|
| <u>-L ALL</u> | データ内容の表示 |
| 0010 ****ABCD**** | データの内容 |
| <u>-A @A*D@10, 20</u> | 「A」で始まり「D」で終わる文字列を切出す |
| <u>-L .</u> | カレント行の表示 |
| 0020 ABCD | データの内容 |
| <u>-L ALL</u> | データ内容の表示 |
| 0010 ****ABCD**** | データの内容 |
| 0020 ABCD | データの内容 |
| - | |

(システム管理課)

「学会予稿集電子ファイル」のサービス開始

我が国の学協会が主催する会議（大会・研究会）における発表予稿集を収録した「学会予稿集電子ファイル」のサービスを平成4年7月27日から開始しました。

1. 概要

(1) 収録対象

全分野の学協会を対象としますが、現在のところ次の10学協会の子稿集を収録しています。

応用物理学会、日本科学教育学会、日本教育工学会、日本教育情報学会、
日本心理学会、日本特殊教育学会、日本行動計量学会、日本理科教育学会、
日本生涯教育学会、全国大学国語教育学会

また、既に参加を表明している次の学協会の子稿集も、順次収録する予定です。

日本物理学会、日本医学教育学会、日本応用心理学会、日本経営教育学会

(2) 収録範囲、収録件数

収録期間は各学協会の子稿集により異なります。サービス開始時のデータ件数は約3万3千件、年間増加件数は約2万件、更新頻度は年数回です。

(3) 収録データ項目

標題、発表者名、発表者の所属機関名、会議の主催団体名、会議名などをデータベース化し、更に、図、グラフ、数式などを含む本文を光ディスクに収録しています。

(4) その他

標題、発表者名などで検索した後、本文をFAXで出力することができます。

2. 利用方法

データベース呼び出しコマンドは「YOKO」です。内容および利用方法については、「NACSIS-IR データベースシート（学会予稿集電子ファイル）」をご覧ください。データベースシートをご希望の方は「①送付先の郵便番号、住所、氏名、②利用者番号、③学会予稿集電子ファイルデータベースシート」を明記の上、FAX (03-3814-4931 共同利用係宛) でお申し込み下さい。

3. 利用料金

| | | |
|------------------------------------|---|-------|
| データベースに接続している時間 | … | 50円/分 |
| 内容を端末に表示した件数 (最も簡略な出力モードの場合を除く) | … | 13円/件 |
| ファクシミリ出力をした枚数 | … | 34円/枚 |

なお、利用に係る経費は、合計額にその3%を加算した額になります。

(データベース課)

「学会発表データベース」の統合サービスの開始

「学会発表データベース」は参加学協会の分野ごとに独立したデータベースとして8系に分けサービスすることとし、全系のサービス開始に向けて作業をすすめて参りましたが、本年6月には最後となった第五系（理学関連）のサービスを開始し、現在全ての系列が利用可能となっています。

一方、学際領域研究、複合領域研究の増加に伴い、関連データの検索が一度に行えるようにしてほしいとの利用者からの改善要望にも応えるため、統合検索システムの開発を行って参りましたが、このたび、サービスが開始できる見通しとなりました。

これにより、学会発表データベース第一系～第八系は「学会発表データベース」として一本化されることとなります。

1. 概要

(1) 収録対象

全分野が対象となり、36学協会を収録することとなります。

(2) 収録範囲

収録範囲は各学協会によって異なります。

統合によりデータ件数は約10万件、年間増加件数は約3万件となります。

(3) 収録データ項目

学会コードが4桁に変わります。

(4) その他

呼び出しコマンドが「GAKKAI」となりますが、利用方法は従来と変わりません。

2. サービス開始時期

平成4年11月を目処に準備を進めています。具体的な日程が決まりしだい、オンラインニュースなどでお知らせします。

3. 利用料金

データベースに接続している時間 … 50円/分

内容を端末に表示した件数 … 13円/件

(最も簡略な出力モードの場合を除く)

なお、利用に係る経費は、合計額にその3%を加算した額となります。

(データベース課)

「平成4年度学術研究活動に関する調査」の実施

学術情報センターでは、学術情報のいっそうの流通を図るため、すでに当センターで提供している研究者の研究活動に関するデータベース（『研究者ディレクトリ』昭和63年5月1日現在調査）の更新・充実を目的とする標記の調査を実施しております。この調査の結果に基づき作成されるデータベースは、我が国の大学などにおける学術研究情報の流通の拡大と迅速化をもたらすとともに、国際的な研究活動および研究交流の促進にも資するものでありますので、この調査にご協力くださるようお願いいたします。

今回の調査の概要は下記のとおりです。

1. 調査の範囲・対象

(1) 個人調査

次の諸機関に所属する本務としての常勤の教育職員および研究職員（学長・所長などを含む）で、大学の助手相当職以上の方全員

- ①大学（含放送大学）
- ②短期大学
- ③高等専門学校
- ④大学共同利用機関
- ⑤文部省および文化庁の施設などの機関
- ⑥文部省所管民間学術研究機関

(2) 機関調査

学部などの単位での機関の関連情報

2. 主な調査事項

(1) 個人調査

所属機関、氏名、生年月日、性別、職名、最終出身大学院、最終出身学校、取得学位、受賞学術賞、所属学会、海外での研究活動、現在までの研究業績（著書、発表論文など）

(2) 機関調査

機関名（和文、英文）、所属研究者数、所在地、学科・課程、専攻名など

3. 調査の実施期日および送付期限

調査実施期日：平成4年 8月 1日

回答送付期限：平成4年10月31日

4. 調査結果の取りまとめと利用

この調査結果は、学術情報センターで集計し、データベース形成の資料として利用するとともにデータベースその他の媒体により公開します。

（データベース課）

NACSIS サービス Q & A (5)

SINET (学術情報ネットワーク インターネット・バックボーン) 関係

質問1

SINET への接続には、どのような形態がありますか？

SINET への接続には次の2通りの形態があります。

(1) SINET ノードのセグメントに接続する場合：

この接続形態は、パケット交換網接続と比較して若干経費的に高額となりますが、通信機器での遅延がほとんどない利用が可能となります。

(2) パケット交換網ノードに接続する場合：

この接続形態は、安価な設備と低速回線で利用が可能となりますが、パケット交換機を経由することで多少の伝送遅延が発生します。

詳細は、本センターが発行（平成4年4月）している、「学術情報ネットワーク加入の手引（第2版）」を参照してください。

質問2

全学的な LAN は未整備ですが部局単位の LAN でも SINET に加入できますか？

SINET への加入は、機関単位を原則としております。しかしながら、全学的な LAN が未整備であっても、学内の部局（工学部など）の LAN が整備されていれば加入は可能です。ただし、その後、他の部局についても LAN が整備された場合は、SINET への加入の一本化を図るため、学内において、すでに加入している部局の LAN と接続するなどの調整が必要となります。

質問3

SINET に接続することにより、他の研究ネットワークとの通信は可能となりますか？

SINET では、本センター内に設置している対外接続用セグメント（JIX）と WIDE、HEPnet、BITNET（JOIN）、STEPNET などとの研究ネットワークが直接接続されていることから、これらのネットワークに参加している機関との相互通信が可能となっております。また、海外においては、米国のインターネットの接続点である NASA（FIX-W：米国・西海岸）とも直接接続されており、米国、欧州およびアジア／大洋州の各国との通信が可能となっております。

質問4

他省庁の機関や民間の研究所などとの通信は可能ですか？

SINET では、他省庁の機関と、学術研究目的に限って一部通信を開始するところであり、民間の研究所についても現在、検討中です。

質問5

SINET と地域ネットワークの関係は？

現在、東京地区では TRAIN、九州地区では KARRN と称して、各地域毎にインターネットの接続拠点を設置し、地域としてまとまったネットワークの運用を行う計画が進んでおり、この接続形態は、今後も増加することが予想されます。SINET の接続については、機関単位の接続を原則としておりますが、地域ネットワークとしてまとめて SINET に接続することも可能です。接続および運用などについては、事前に本センターへご連絡ください。

質問6

SINET を経由して、学術情報センターの情報検索サービス、目録所在情報サービスおよび電子メールサービスを利用することができますか？

現在、本センターを利用する接続形態の一つとして、SINET などのインターネットを経由したサービスを可能とすべく、接続試験を行っています。情報検索サービスの場合は、ホストに IP 接続をすれば利用が可能となりますが、目録所在情報サービスの場合、端末側に TCP/IP 対応の UIP (アプリケーション・ソフトウェア) が必要となります。この UIP については現在開発中です。

なお、全ての正式運用は平成5年1月1日を予定しておりますが、接続試験への参加希望がございましたら、本センターまで連絡してください。

質問7

既に、JAIN に加入し、運用を行っていますが、SINET へ移行するにはどのような手続きなどが必要ですか？

JAIN の場合、利用する幹線がパケット交換網ですが、SINET の場合は、インターネット・バックボーンが幹線となります。パケット交換網の場合、数か所の交換機を経由することから、遅延時間が増大しますが、インターネット・バックボーンの場合はパケット交換機を通らない、または、バックボーンに至るときに1個の交換機を経由するだけで済むことにより、大幅にレスポンス時間が短縮されます。また、SINET への移行に関する手続きは次の通りです。

- 1) 事務手続き (本センターに提出)
 - ・ 加入変更申請書 (接続届)

- 運用連絡票（接続の手引の付属資料）
- 2) 設定関係（ルータ）
- 加入者番号（DTE アドレス）の変更
 - X.25 インターフェイスの設定確認
 - SINET 接続用 IP アドレスの設定
 - サブネットの運用
 - ネームサーバの設定変更（必要に応じて）
- 3) 関係機関への通知など
- 国内（JNIC）への通知。
 - 海外のインターネットへの通知。この通知は、必要により本センターが手続きを代行しています。

質問 8

現在、uucp 方式で電子メールの交換を行っていますが、SINET に加入した場合、電子メールの運用はどのようになりますか？

加入機関側において、ネームサーバもしくは、メールサーバのための機器が必要となります。インターネットの運用を行うには、ネームサーバの設定は不可欠ですので接続が完了した早い時期にネームサーバの設定を行ってください。また、SINET では、加入機関のセカンダリーのネームサーバの運用を引き受けています。

質問 9

SINET への加入および接続に関する資料や、ネームサーバおよび電子メールの設定方法など技術的な資料はどこで入手できますか？

1) SINET への加入および接続に関する資料

本センターで作成しました「学術情報ネットワーク加入の手引（第2版）」および「SINET 接続の手引」が入手できますので、電話または電子メールにてご請求ください。

請求先：電話（03-3942-6947～8） 電子メール(ipnoc@sinet.ad.jp)

2) ネームサーバおよび電子メール設定のための資料

FTP (anonymous ftp:ファイル転送) にて、ネームサーバの構築に関する資料の入手が可能です。

ファイル転送 (anonymous ftp)

nic.ad.jp:pub/jnic/xxxxx

質問10

IP アドレスやドメイン名を取得するには、どこに連絡すればよいですか？

インターネットの接続に必要な IP アドレスおよびドメイン名は、日本ネットワークインフォメーションセンター（JNIC: Japan Network Information Center）において取得が

可能です。申請方法や用紙の記述などについては、電子メールやファイル転送により入手できます。連絡先および入手方法は下記のとおりです。

JNIC 連絡先：

住所： 1 1 3 東京都文京区弥生2-11-16
東京大学大型計算機センター内
日本ネットワークインフォメーションセンター
電子メール mail-server@nic.ad.jp
ファイル転送 (anonymous ftp)
nic.ad.jp:pub/jnic/xxxx

質問11

SINET に加入するには、どの位の経費が必要ですか？

接続に必要な通信機器などの一時経費と学術情報ネットワークのノードまで接続する専用回線などの経常経費が必要となります。詳細は、「学術情報ネットワーク加入の手引(第2版)」を参照してください。本手引きを入手ご希望の方は、本センター・ネットワーク係までご請求ください。

質問12

新たな SINET ノードの整備計画はありますか？

現在、大型計算機センターを設置している7大学と筑波大学の合計8機関に設置しています。今後10数ノード程度を整備していく計画で概算要求をしているところです。

質問13

ネットワークの停止を回避してほしいが？

今年のお線構成の変更時において、SINET に関しては ISDN を利用したバックアップ回線の整備を計画しています。これにより、今後、ネットワークを停止することなく計画的にネットワーク構成の変更などを実施できると考えています。なお、ISDN の回線容量は 64Kbps を予定しており、バックアップ時には多少の性能劣化が予想されますが、皆様の協力をお願いいたします。

(ネットワーク係)

NACSIS-IR システム・データベース収納状況 (1/2)

平成4年8月7日現在

| No | データベース名称 | 収納件数 | 収録期間 |
|----|-------------------------------|--------------|-----------|
| 1 | 科学研究費補助金 研究成果概要データベース | 74,685 | 昭和60年度～ |
| 2 | 学位論文索引データベース | 56,547 | 昭和59年度～ |
| 3 | 学会発表データベース第一系 (電気・情報・制御関連) | 66,594 | 昭和62年3月～ |
| 4 | 学会発表データベース第二系 (化学関連) | 18,256 | 昭和63年5月～ |
| 5 | 学会発表データベース第三系 (建築・土木・造園関連) | 12,564 | 平成2年10月～ |
| 6 | 学会発表データベース第四系 (生物学・農学関連) | 731 | 平成2年3月～ |
| 7 | 学会発表データベース第五系 (理学関連) | 133 | 平成3年1月～ |
| 8 | 学会発表データベース第六系 (工学関連) | 264 | 平成2年1月～ |
| 9 | 学会発表データベース第七系 (医学関連) | 801 | 平成2年度～ |
| 10 | 学会発表データベース第八系 (人文・社会科学関連) | 133 | 平成2年6月～ |
| 11 | 学術論文データベース第一系(全文) (電子関連) | 456 1,976 | 平成元年度～ |
| 12 | 学術論文データベース第二系 (化学関連) | 6,259 | 昭和58年1月～ |
| 13 | 海外研究プロジェクト データベース | 80,972 | 平成4年1月末現在 |
| 14 | 民間助成研究成果概要データベース | 665 | 昭和46年度～ |
| 15 | 経済学文献索引データベース | 66,952 | 昭和58年4月～ |
| 16 | 学会予稿集電子ファイル | 33,488 | 1969年4月～ |
| 17 | 雑誌記事索引データベース | 859,233 | 1984年1月～ |
| 18 | 現行法令データベース | 3,615 | 平成4年3月末現在 |
| 19 | 維新史料概要データベース | 20,376 | |
| 20 | 木簡データベース | 13,497 | |
| 21 | 研究者ディレクトリ | 130,109 | 昭和63年5月現在 |
| 22 | データベース・ディレクトリ | 1,170 | 平成2年4月現在 |
| 23 | 家政学文献索引データベース | 19,751 | 1979年4月～ |
| 24 | Life Sciences Collection | 1,063,100 | 1982年1月～ |

NACSIS-IR システム・データベース収納状況 (2/2)

| No. | データベース名称 | 収納件数 | 収録期間 |
|-----|-----------------------------|------------------------|------------|
| 25 | MathSci | 831,915 | 1973年1月～ |
| 26 | COMPENDEX PLUS | 2,404,937 | 1976年1月～ |
| 27 | Harvard Business Review | 2,585 | 1927年1月～ |
| 28 | ISTP & B | 1,820,373 | 1982年1月～ |
| 57 | EMBASE | 2,441,385 | 1984年4月～ |
| 30 | SciSearch | 3,777,925 | 1987年4月～ |
| 31 | Social SciSearch | 655,927 | 1987年4月～ |
| 32 | A & H Search | 601,196 | 1987年4月～ |
| 33 | 目録所在情報データベース (和図書) | 645,793 4,607,986 | |
| 34 | 目録所在情報データベース (洋図書) | 1,594,328 3,398,987 | |
| 35 | 目録所在情報データベース (和雑誌) | 72,627 1,493,939 | |
| 36 | 目録所在情報データベース (洋雑誌) | 111,159 904,004 | |
| 37 | 科学技術関係欧文会議録 データベース | 29,771 | 昭和60年4月～ |
| 38 | アメリカン・センター図書館 総合目録データベース | 6,451 | 平成元年12月末現在 |
| 39 | JPMARC | 1,101,540 | 1969年1月～ |
| 40 | LCMARC(Books) | 3,286,007 | 1968年1月～ |
| 41 | LCMARC(Serials) | 542,254 | 1973年1月～ |

(注) No.33～36のデータベースの上段は書誌件数、下段は所蔵件数。(システム業務係)

接続ニュース

前号以降、新たに目録所在情報サービスの参加機関となった図書館は、以下のとおりです。

(平成4年8月末現在)

| No. | 機関名 | 接続日 | No. | 機関名 | 接続日 |
|-----|-------------------|---------|-----|-----------------|---------|
| 198 | 東京国際大学 | 4. 6.15 | 203 | 学術情報センター | 4. 7.20 |
| 199 | 相模女子大学 | 4. 6.17 | 204 | 美作女子大学 | 4. 7.29 |
| 200 | 北陸先端科学技術 大学院大学 | 4. 7. 2 | 205 | 福井県立大学 | 4. 8. 3 |
| | | | 206 | 江戸川大学 | 4. 8.12 |
| 201 | 国際基督教大学 | 4. 7. 8 | 207 | 新居浜工業 高等専門学校 | 4. 8.21 |
| 202 | 国立遺伝学研究所 | 4. 7.17 | | | |

この結果、参加機関数は、国立大学96、公立大学11、私立大学86、共同利用機関10、短期大学1、高等専門学校1、その他2、合計207となりました。(共同利用係)

NACSIS-CAT システム・データベース構築状況

平成4年8月7日現在

| データベース名称 | | 収納件数 | 備考(収録期間等) | |
|-----------------|-----------------|-----------------|-----------|-----------------|
| 総合目録データベース | 和 図 書 | 書 誌 | 646,159 | |
| | | 所 蔵 | 4,610,963 | |
| | 洋 図 書 | 書 誌 | 865,592 | |
| | | 書 誌 (遡 及) | 729,278 | |
| | | 所 蔵 | 3,400,714 | |
| | 和 雑 誌 | 書 誌 | 72,721 | |
| | | 所 蔵 | 1,509,843 | |
| | 洋 雑 誌 | 書 誌 | 110,204 | |
| | | 所 蔵 | 913,546 | |
| | 著 者 名 典 拠 | | 575,903 | |
| | 統 一 書 名 典 拠 | | 1,808 | |
| | 和 雑 誌 変 遷 マ ッ プ | | 8,551 | |
| 洋 雑 誌 変 遷 マ ッ プ | | 13,365 | | |
| 参照ファイル | LC/MARC | 洋 図 書 書 誌 | 3,948,381 | 1968年1月～1992年8月 |
| | | 洋 雑 誌 書 誌 | 542,254 | 1973年1月～1992年7月 |
| | | 非 文 字 書 誌 | 150,129 | 1973年1月～1991年3月 |
| | | 洋 書 著 者 名 典 拠 | 2,446,381 | 1977年1月～1992年7月 |
| | | 洋 書 統 一 書 名 典 拠 | 129,075 | 1977年1月～1992年7月 |
| | JP/MARC | 和 図 書 書 誌 | 1,104,188 | 1969年1月～1992年8月 |
| | | 和 雑 誌 書 誌 | 82,181 | 1968年8月～1992年3月 |
| | | 和 書 著 者 名 典 拠 | 26,288 | |
| | UK/MARC | 洋 図 書 書 誌 | 1,254,690 | 1950年1月～1992年8月 |
| | TRC/MARC | 和 図 書 書 誌 | 284,300 | 1985年4月～1992年8月 |
| | GPO/MARC | 洋 図 書 書 誌 | 309,604 | 1976年1月～1991年5月 |

(システム業務課)

ILL システムの利用機関

4月以降に ILL システムを利用した機関のうち、7月末時点で終了状態になったレコードを依頼・受付した機関は以下の130機関（230参加組織）である。

◎国立大学（88機関）

- 1 北海道大学
- 2 北海道教育大学
- 3 室蘭工業大学
- 4 小樽商科大学
- 5 帯広畜産大学
- 6 旭川医科大学
- 7 弘前大学
- 8 岩手大学
- 9 東北大学
- 10 宮城教育大学
- 11 秋田大学
- 12 山形大学
- 13 茨城大学
- 14 筑波大学
- 15 図書館情報大学
- 16 宇都宮大学
- 17 群馬大学
- 18 埼玉大学
- 19 千葉大学
- 20 東京大学
- 21 東京医科歯科大学
- 22 東京外国語大学
- 23 東京学芸大学
- 24 東京芸術大学
- 25 東京工業大学
- 26 東京商船大学
- 27 東京水産大学
- 28 お茶の水女子大学
- 29 電気通信大学
- 30 一橋大学
- 31 横浜国立大学
- 32 新潟大学
- 33 長岡技術科学大学
- 34 上越教育大学
- 35 富山大学
- 36 富山医科薬科大学
- 37 金沢大学
- 38 福井大学
- 39 福井医科大学
- 40 山梨大学
- 41 山梨医科大学
- 42 信州大学
- 43 岐阜大学
- 44 浜松医科大学
- 45 名古屋大学
- 46 愛知教育大学

- 47 名古屋工業大学
- 48 豊橋技術科学大学
- 49 三重大学
- 50 滋賀大学
- 51 滋賀医科大学
- 52 京都大学
- 53 京都教育大学
- 54 京都市芸繊維大学
- 55 大阪大学
- 56 兵庫教育大学
- 57 神戸大学
- 58 神戸商船大学
- 59 奈良教育大学
- 60 奈良女子大学
- 61 和歌山大学
- 62 鳥取大学
- 63 島根大学
- 64 島根医科大学
- 65 岡山大学
- 66 広島大学
- 67 山口大学
- 68 徳島大学
- 69 鳴門教育大学
- 70 香川大学
- 71 香川医科大学
- 72 愛媛大学
- 73 高知大学
- 74 高知医科大学
- 75 福岡教育大学
- 76 九州大学
- 77 九州芸術工科大学
- 78 佐賀大学
- 79 佐賀医科大学
- 80 長崎大学
- 81 熊本大学
- 82 大分大学
- 83 大分医科大学
- 84 宮崎大学
- 85 宮崎医科大学
- 86 鹿児島大学
- 87 鹿児島体育大学
- 88 琉球大学

◎公立大学（1機関）

- 89 東京都立大学

◎私立大学（35機関）

- 90 旭川大学
- 91 札幌大学
- 92 北星学園大学
- 93 岩手医科大学
- 94 獨協大学
- 95 青山学院大学
- 96 慶応義塾大学
- 97 成蹊大学
- 98 東京慈恵会医科大学
- 99 東京農業大学
- 100 武蔵大学
- 101 明治大学
- 102 明治学院大学
- 103 高岡法科大学
- 104 静岡理工科大学
- 105 愛知淑徳大学
- 106 中部大学
- 107 名古屋商科大学
- 108 南山大学
- 109 鈴鹿医療科学技術大学
- 110 京都産業大学
- 111 光華女子大学
- 112 同志社大学
- 113 立命館大学
- 114 大阪工業大学
- 115 大谷女子大学
- 116 近畿大学
- 117 摂南大学
- 118 梅花女子大学
- 119 関西学院大学
- 120 岡山理科大学
- 121 九州産業大学
- 122 福岡大学
- 123 福岡工業大学
- 124 熊本商科大学

◎大学共同利用機関等（6機関）

- 125 放送大学
- 126 高エネルギー物理学研究所
- 127 放送教育開発センター
- 128 国立婦人教育会館
- 129 国立歴史民族博物館
- 130 学術情報センター

（専門・電子情報係）

公開講演会（第12回）の開催予定

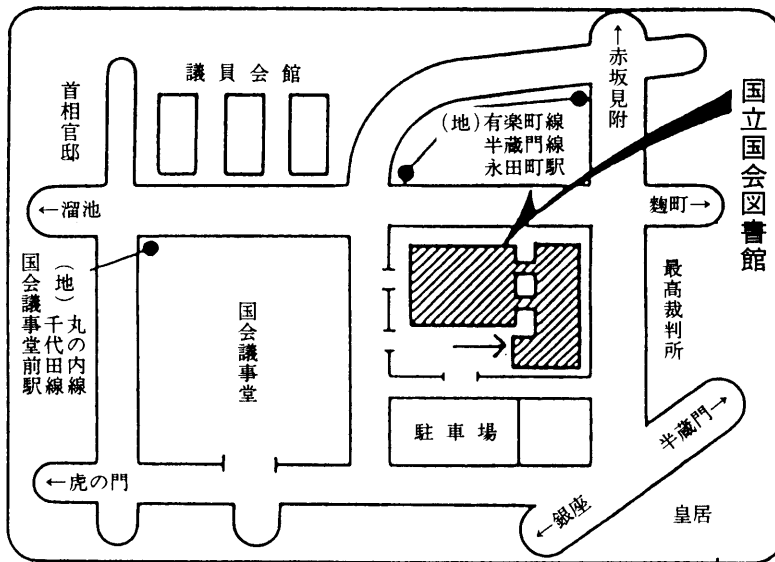
文部省科学研究費補助金（国際共同研究）
 日本情報および東アジア文字による学術データベースの国際交換に関する研究
 主催 学術情報センター・国立国会図書館

1. 日 時 平成4年11月20日（金） 9:30～17:20
2. 場 所 国立国会図書館講堂（定員200名）
3. テ ー マ 学術情報と標準化
4. プログラム 主催者あいさつ
 情報、図書館、ドキュメンテーション分野の標準化：ISO/TC46の成果
 Ms Verina Horsnell （英国 DEC 社）
 情報技術標準規格：実装、維持管理および調整
 Ms Sally H. McCallum （米国議会図書館）
 米国における国内標準化活動
 Ms Patricia Harris （米国情報規格協会（NISO））
 カナダにおける国内標準規格制度
 Mr. Ralph Manning （カナダ国立図書館）
 北欧における学術情報と標準化
 Dr. Kjell Nilsson （スウェーデン王立図書館）
 文献情報標準化と国立中央図書館の最近の動向
 Mr. JO Won-ho （韓国国立中央図書館）
 韓国における ISO/TC46 の活動概要－韓国文字の翻字を中心に
 Mr. YU Kyong Hee （韓国情報産業標準院）
 国家的な標準化活動における中国国家図書館の役割
 Ms SUN Beixin （中国国家図書館）
 日本における図書館情報サービス分野の標準化活動
 宮澤 彰，内藤 衛亮 （学術情報センター）
 司会： 内藤 衛亮（学術情報センター教授）
5. 参加費など テキスト・参加費は無料ですが、旅費などは参加者側の負担となります。
6. 参加要領 参加希望者は、住所、氏名、勤務先、電話番号、職名を明記し、「公開講演会参加」と書き添えて、葉書またはFAXでお申込ください。
7. 申込締切 平成4年11月6日（金）

8. 申込みおよび 問合わせ先
〒112 東京都文京区大塚3-29-1
学術情報センター管理部総務課研究協力係
電 話：03-3942-6909（直通）
FAX：03-3942-6900

注：参加人数に調整の必要が生じた場合は、平成4年11月12日（木）迄に本人宛に連絡いたします。連絡のない方は参加が承認されたものとご了承ください。

9. 会場案内図
会場：国立国会図書館講堂
交通：地下鉄 丸の内線・千代田線 国会議事堂前駅
有楽町線・半蔵門線 永田町駅
電話：03-3581-2331

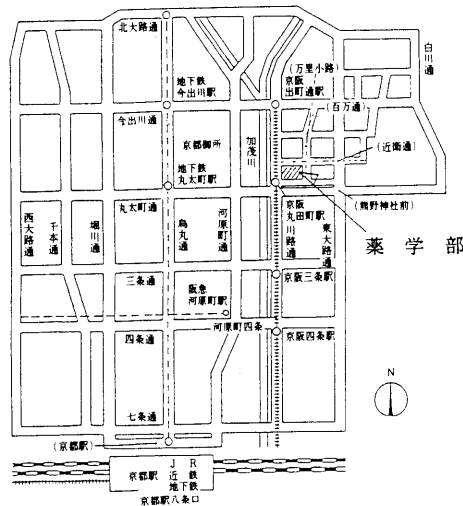


- * 駐車スペースがありませんので、車での来場はご遠慮ください。
- * 電話の取次は、特に緊急の場合以外はいたしませんのでご了承ください。

平成4年度学術情報センター・シンポジウム開催

- | | |
|----------|--|
| 1. 日 時 | 平成4年10月13日(火) 10:00 ~ 16:00 |
| 2. 場 所 | 京都大学薬学部記念講堂 (定員330名) |
| 3. テ ー マ | 人文科学と情報処理システム |
| 4. プログラム | <p>10:00 主催者あいさつ</p> <p>10:20 漢籍の情報処理における電子漢字の効用 勝村 哲也(京都大学人文科学研究所助教授)</p> <p>11:10 日本史研究と歴史情報データベース 石上 英一(東京大学史料編さん所教授) 横山 伊徳(東京大学史料編さん所助手)</p> <p>12:00 昼食・休憩</p> <p>13:20 言語研究とテキスト・データベース 樋口 忠治(九州大学言語文化部門言語科学部門教授)</p> <p>14:10 古典研究と情報処理 新井 栄蔵(国文学研究資料館研究情報部長)</p> <p>15:00 休憩</p> <p>15:10 人文研究と言語研究(仮題) 西田 龍雄(学術情報センター副所長)</p> |
| 5. 参加要領 | 申込締切が過ぎていきますので、下記にお問い合わせください。 |
| 6. 問合わせ先 | 〒112 東京都文京区大塚3-29-1 学術情報センター管理部共同利用課研修係 電 話：03-3942-6935, 6936(直通) FAX：03-3814-4931 |

7. 会場案内図



会場：京都大学薬学部記念講堂
 交通：地下鉄および京阪電鉄
 丸太町駅下車
 バス 近衛通, 荒神口, 荒神橋
 のいずれかで下車
 電話：075-753-4510

- * 駐車スペースがありませんので、車での来場はご遠慮ください。
- * 電話の取次は、特に緊急の場合以外はいたしませんのでご了承ください。

目録所在情報サービス利用説明会の開催

短期大学および高等専門学校を中心とした未接続図書館に目録所在情報サービスの概要や接続方法を理解していただくため、標記説明会を実施しておりますが、引き続き第7回から第9回までの募集をいたします。また、前回募集した第5回、第6回にも若干の空きがありますので追加募集いたしますので併せてご案内いたします。

- (1) おもな内容
 ①学術情報センターの概要、②目録所在情報サービスの概要と利用方法
 ③学術情報センターとの接続方法、④利用申請方法、⑤質疑応答、個別相談
- (2) 開催日時および申込締切

| 開 | 催 | 日 | 時 | 申 込 締 切 | 備 考 |
|-----|--------|-----|-------------|-----------|------|
| 第5回 | 10月23日 | (金) | 14:00~16:30 | 10月14日(水) | 追加募集 |
| 第6回 | 11月20日 | (金) | 14:00~16:30 | 10月30日(金) | 追加募集 |
| 第7回 | 12月18日 | (金) | 14:00~16:30 | 11月27日(金) | |
| 第8回 | 1月22日 | (金) | 14:00~16:30 | 12月18日(金) | |
| 第9回 | 2月19日 | (金) | 14:00~16:30 | 1月29日(金) | |

なお、各回先着12機関とさせていただきますので、希望日を電話(03-3942-6933共同利用係)で予約(確認)のうえ、「目録所在情報サービス利用説明会参加」と明記し、①機関名、②機関の郵便番号および住所、③参加者の職名および氏名(3名以内)、④連絡先の電話番号、⑤参加日(第○回○月○日)を記入しFAX(03-3814-4931共同利用係宛)にて申し込みください。(共同利用係)

平成4年度追加講習(会)の開催日程

これまで実施された講習(会)が応募者多数のため、下記の要領で追加開催を予定しています。また、日程などが調整中であった鹿児島大学でのNACSIS-IR講習(総合コース)は、下記の要領で実施いたします。

| 講 習 名 | 期 間 | 定員 | 申込締切日 |
|-------------------------|-------------------------|-----|---------|
| 目録システム講習会 | 5. 2.15 ~ 2.19 | 28名 | 4.12. 4 |
| ILL システム講習会 | ① 5. 1.21 ~ 1.22 | 28名 | 4.11.27 |
| | ② 5. 1.25 ~ 1.26 | 28名 | |
| NACSIS-IR 講習 (基礎 I) | ① 4.12.15 | 28名 | 4.10.30 |
| | ② 4.12.16 | 28名 | |
| NACSIS-IR 講習 (総合コース) | 鹿児島大学 5. 2.18 ~ 2.19 | 15名 | |

(研修係)

平成4年度前期会議などの開催

運営協議委員会

平成4年度前期の学術情報センター第17回運営協議委員会は次のような審議・報告を行った。

1. 第17回(平成4年6月17日)於:学術情報センター分室会議室

議 事

1. 名誉教授の推薦について
2. 教官の人事について
3. 平成3年度事業報告について
4. 平成4年度事業計画について
5. 平成4年度の共同研究について
6. 平成5年度概算要求について

評議員会

平成4年度前期の学術情報センター第14回評議員会は次のような議事について審議を行った。

1. 第14回(平成4年6月25日)於:学術情報センター分室会議室

議 事

1. 名誉教授の推薦について
2. 教官の人事について
3. 「学術情報センター所長候補者の選考に関する申合せ」について
4. 平成3年度事業報告について
5. 平成4年度事業計画について
6. 平成5年度概算要求について

参与会

学術情報センター参与会(第4回)は次のような話題について意見を交換した。

1. 第4回(平成4年6月26日)於:学術情報センター分室会議室

話 題

1. 学術情報センターのサービス対象の拡大について

紀要編集委員会

平成4年度第1回紀要編集委員会（委員長：山田学術情報センター研究開発部長）が平成4年6月15日（月）に開催された。

委員長選出後、刊行スケジュール案が承認され、続いて論文の原稿が照会され、査読分担当が行われた。

その他、投稿規程（案）が照会され、検討した結果、承認された。

総合目録委員会

平成4年度第1回総合目録委員会（委員長：井上如学術情報センター研究主幹）が、平成4年7月7日（火）に開催された。

委員長選出後、報告事項として、①目録所在情報サービス運用状況、②平成4年度目録情報関係事業、③平成4年度システム開発予定、④学術雑誌総合目録編集事業、⑤平成4年度教育・研修事業の5項目が報告された。

引き続き審議に移り、今年度から2年間の任期で総合目録小委員会を設置することが承認され、次の3項目についての審議を付託することが了承された。

1. ILLシステムの開発に関する事
2. 目録システムにおける共有レコードの修正指針に関する事
3. 「目録情報の基準」適用上の諸問題に関する事

人事異動

発令年月日 氏名 官職名

（採用）

4. 7. 1 岸田 節 研究開発部学術情報研究系助手

（併任）

併任官職名

官職名

4. 7. 1 近藤 務 事業部目録情報課 筑波大学図書館部情報システム課

学術情報センター日誌

[平成4年5月27日～平成4年8月26日]

- | | |
|--|--|
| 5.27 台湾国立中央図書館Li-man Lo 氏来訪 〃 丸善UTLAS 伊澤知夏氏来訪 | 7.9 第4回ILL 講習会～10日 |
| 6.9 韓国学術振興財団学術資料部課長朴昌夏氏来訪 | 7.16 米国議会図書館議会調査局Cristin M. Vajs氏来訪 |
| 6.10 米国NTIS Carla Zainie 氏来訪 | 7.20 第3回目録システム講習会～24日 〃 大学図書館職員長期研修(会場: 学情セ)～21日 |
| 6.11 韓国標準科学研究院Lee Woan Kyu氏来訪 | 7.29 オーストリア規格協会国際学術用語学 研究所所長Cristian Galinski 氏来訪 |
| 6.15 カナダ国 Utlas社Richard Newmann 氏他1名来訪 〃 筑波大学図書館一行来訪 | 8.4 文部省学術情報課長谷川課長他1名 来訪 |
| 6.17 運営協議員会 | 8.6 第5回ILL 講習会～7日 |
| 6.18 タイ国King Mongkut's Institute of Technology, Chaokun Tahan Ladkrabang, Voravat Limpoka 氏 海外実務担当研修受講～23日 | 8.7 シンガポール教育省Lee Fei Chen氏 他1名来訪 |
| 6.22 中国労働情報文献中心副主任梁志剛氏来訪 〃 第2回目録システム講習会～26日 | 8.17 米国City University of New York, Medgar Evers Colledge 図書館長 Suzine Har Nicolescu氏来訪 |
| 6.24 ドイツ国立情報処理研究所Klaus Birkenbihl氏 他2名来訪 | 8.18 NACSIS - IR講習基礎コースII 第1回～19日 |
| 6.25 評議員会 〃 中国現代国際関係研究所図書館王淑芬氏来訪 〃 アジア経済研究所図書館鈴木祐子氏来訪 | 8.24 目録システム第4回講習会～28日 |
| 6.26 参与会 | 8.26 中国航天科学技術情報研究所副所長 盛智龍氏他4名来訪 |
| 7.3 NACSIS - IR講習基礎コースI第2回 | |
| 7.6 学術情報センター学術講演会(東京大学山上会館) | |

海外渡航一覧

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 5.17～5.25 内藤教授(英国) | 7.27～8.5 宮澤教授, 橋爪助教授(英国) |
| 5.17～5.22 宮澤教授(英国) | 8.6～8.16 内藤教授(シンガポール他) |
| 5.19～6.4 浅野教授(カナダ) | 8.29～9.14 佐藤助手(オランダ他) |
| 6.22～6.24 山田研究開発部長(台湾) | 9.1～9.13 井上研究主幹(中国) |
| 7.24～8.5 孫助手(英国) | |

学術情報センターニュース(第21号)

1992年9月30日発行

発行人 猪瀬 博

発行 学術情報センター 東京都文京区大塚3丁目29番地1号(〒112)

電話 (03)3942-6937(直通) 情報・資料係

研究者の皆様へ

財団法人 電気・電子情報学術振興財団 主催

「NACISIS-IR」情報検索講習会の御案内

本財団は、電気、電子、情報に関する学術の研究並びに応用を振興するため、電気、電子、情報に関する学術研究の助成及び学術情報の提供を行うことを目的に、昭和18年に文部省の許可を得て設立された公益法人であります。

平成3年3月には、「NACISIS-IR総合マニュアル」を発行し、その後改訂版も発行し、学術情報センターの情報検索サービス（NACISIS-IR）の利用者の方々に広く御利用いただいているところですが、このたび、学術情報センターの御協力を得て、研究者の皆様を対象とした入門レベルの講習を企画・実施することといたしました。

これからNACISIS-IRを利用したい、利用したいが接続方法がわからない、接続はできてもうまく検索ができない、といった方々にきっとお役に立つ講習であると存じますので、ふるって御参加下さいますよう御案内申し上げます。

平成4年9月

(財) 電気・電子情報学術振興財団理事長
東京大学教授 大越 孝 敬

「NACSIS-IR」情報検索講習会実施要項

1 趣 旨

学術情報センター情報検索サービス（NACSIS-IR）の利用方法等の知識・技術について入門レベルの講習を実施し、大学等の研究者の学術情報入手の利便に資する。

2 主 催

財団法人 電気・電子情報学術振興財団

3 対 象

大学、大学共同利用機関、短期大学、高等専門学校等の研究者

4 定 員

28人

5 期 間

平成5年1月19日（火）・20日（水）

6 会 場

学術情報センター

7 講習内容

別表1のとおり

8 日 程

別表2のとおり

9 申込方法

官製葉書に①氏名、②所属、③郵便番号、④住所、⑤連絡先の電話番号を記入の上、平成4年11月30日（月）までにお申込み下さい。

なお、申込者が多数の場合は抽選とさせていただきます。また、定員に充たない場合は中止させていただくこともありますので悪しからず御了承賜りますようお願い申し上げます。（受講の可否等につきましては、おって当方より連絡させていただくこととしております。）

10 経 費

受講料として、5,000円を当日講習会場で徴収させていただきます。

11 申込・問合せ先

学術情報センター気付 電気・電子情報学術振興財団 (担当：長谷川)

住所 〒112 東京都文京区大塚3-29-1

電話 (03) 3942-5674 (直通)

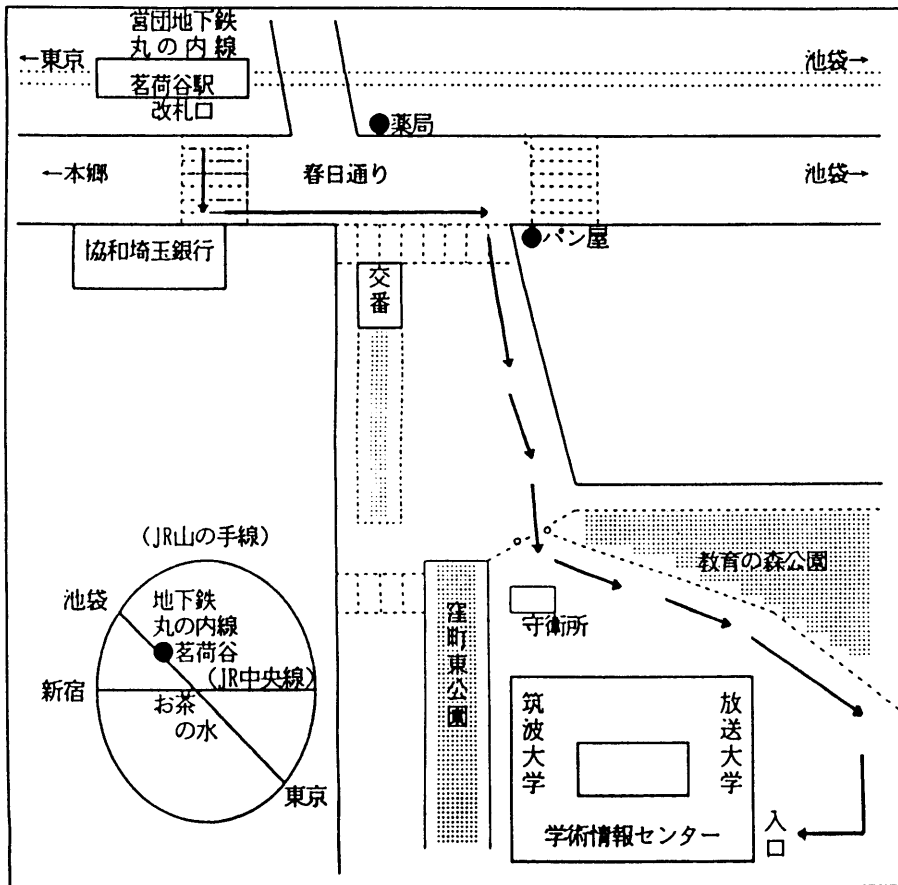
(別表1) 講習内容

| 事項 | 主な内容 |
|--------------------|--|
| 端末操作 | 1 NACISIS-IRへの接続方法 2 端末の操作方法 |
| 検索コマンド (I)、(II) | 1 情報検索について 2 SEARCH、PHRASE、AND、OR、 REMINDE、DISPLAYの使い方 3 LOOK、DISPLAY(目録系)の使い方 4 その他の検索コマンドの機能 |
| 演習(I)、(II) | 1 検索例による検索の実際 |
| 実習 | 1 問題集による検索の実際 2 受講者の検索課題に応じた検索の実際 |

(別表2) 日程

| 月/日 (曜) | 17:15 | | | | | 20:20 |
|-------------|-------|------------------|-------|-----------|-------|-------------|
| 1/19 (火) | 17:15 | 17:45 | 18:00 | 19:45 | 20:15 | |
| | 受付 | 開日 講程明 式説等 | 端末操作 | 検索コマンド(I) | 演習(I) | |
| 1/20 (水) | 17:15 | 19:15 | | 19:45 | 20:15 | 閉 講 式 |
| | | 検索コマンド(II) | | 演習(II) | 実習 | |

<会場案内図>



営団地下鉄丸の内線茗荷谷駅下車 徒歩3分

好評発売中！

「NACISIS-IR総合マニュアル改訂版」

編集：学術情報事務研究会

発行：電気・電子情報学術振興財団

体裁：A4版 499ページ

価格：7,000円

取扱書店：紀伊國屋

丸善